



# みんなで「マイクロプラスチック」について考えよう！

## 1. 「マイクロプラスチック」って何？

自然環境に流出したプラスチックごみは、川の流れや海の波、紫外線などによって、小さく砕けていきます。そして、大きさが5mm以下になったプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼んでいます。マイクロプラスチックは、世界中の海でたくさん見つかり、サイズがとても小さいため、生物が体内に取りこみやすく、生態系への影響や人の健康への影響も心配されています。マイクロプラスチックは、一度、自然環境に流出してしまうと、回収することはきわめて困難であり、海などでは分解されないまま、広い範囲で漂い続けることになります。

## 2. どんなプラスチックが「マイクロプラスチック」になるの？



こうした、みなさんにとっても身近なプラスチックが、ポイ捨てや風で飛ばされるなどで自然環境に流出し、小さく砕けて、やがてマイクロプラスチックになります。

★スタディ① この他にも、どんなプラスチックがあるのか考えてみましょう。

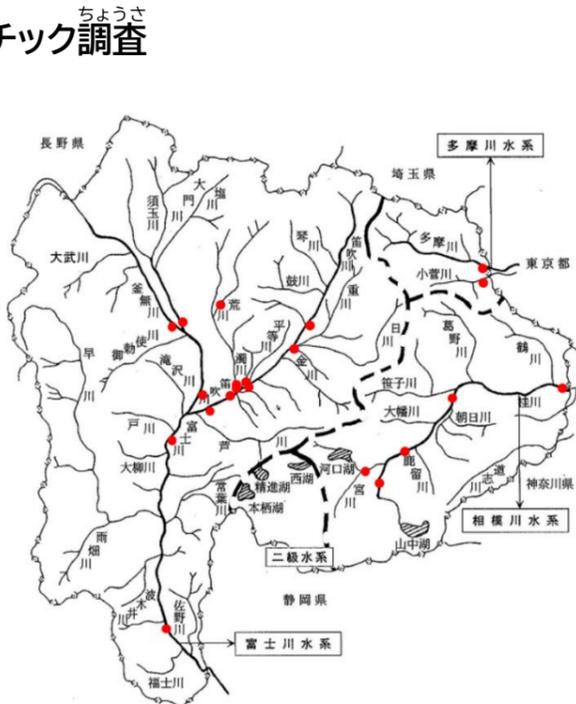
## 3. 県内河川におけるマイクロプラスチック調査

マイクロプラスチックの拡散によって、海や環境や生物などへの影響が心配されていますが、すでに河川にもマイクロプラスチックが流れこんでいることが考えられます。

そこで、山梨県では、令和元年度から、県内を流れる河川の水の中にマイクロプラスチックがどのくらい含まれているかを確かめるために、調査を行っています。



<調査方法>  
 ・平常時の水かさの時に、流心部(流れの速い部分)で採取  
 ・採取には、網の目が0.3mm、網の入口の径が30cm、網の長さが75cmのプランクトンネットを使用



< ● 調査地点(令和元年度～令和6年度) >

## 4. 河川で見つかったプラスチックごみの様子

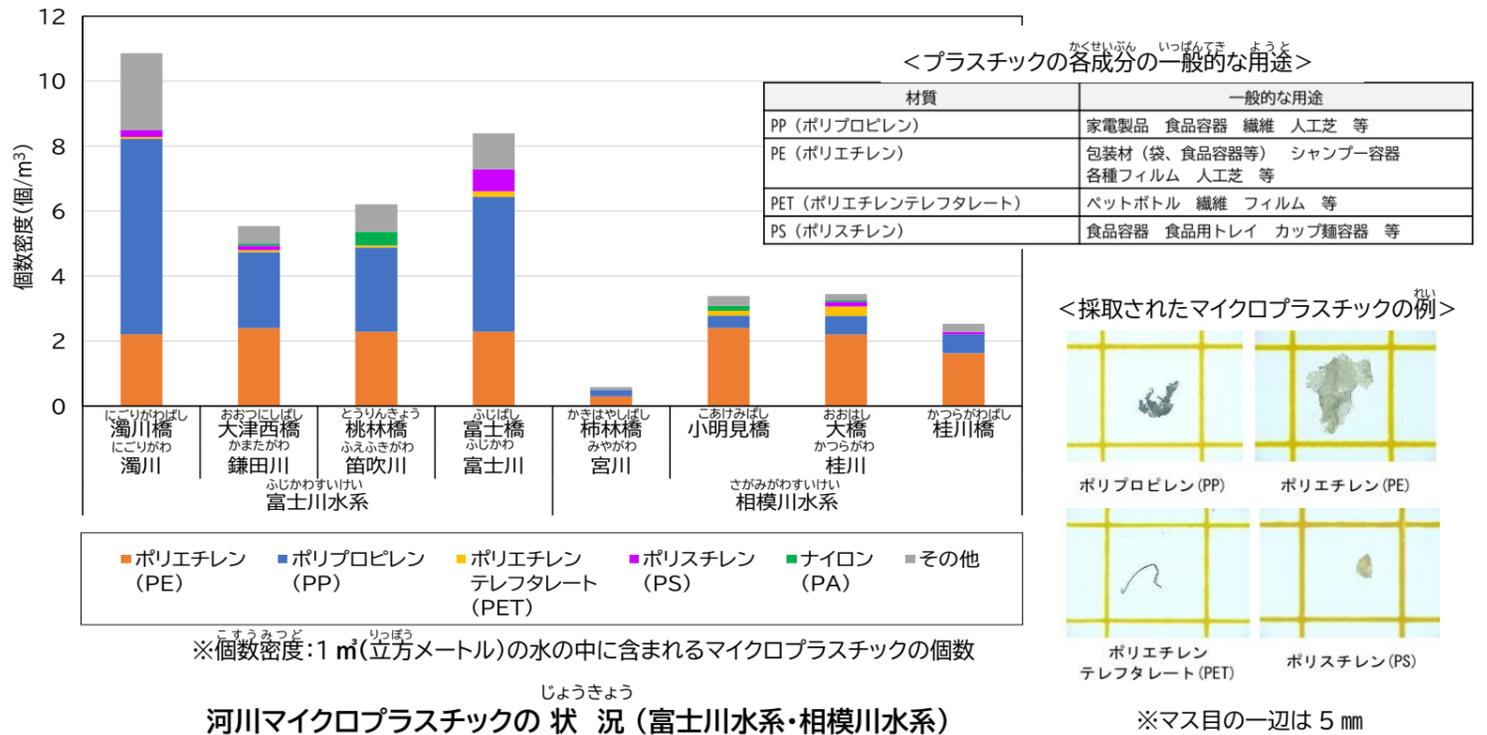
調査した河岸には、様々なプラスチックごみがたくさん見つかりました。



ペットボトル 食品容器 衣類 レジ袋・農業用マルチシート

★スタディ② みなさんが住んでいる地域には、どんなプラスチックごみが落ちていますか？

## 5. マイクロプラスチック調査の結果(令和6年度)



## 6. 調査結果のまとめ

県内の河川で確認されたマイクロプラスチックは、人の活動が多い場所や住宅が密集する地域を流れてきた先に多く含まれている傾向にあります。

その原因としては、多くの方が、ペットボトルやレジ袋などのプラスチックをたくさん利用する中で、ポイ捨てや、意図せず風で飛ばされ河川に運ばれたことなどが考えられます。

こうしたプラスチックごみの河川への流出を減らすためには、街の清掃活動を行うことや、日常生活を見直し、プラスチックごみを減らす取り組み(マイバッグ・マイボトルを使うなど)を行うなど小さなことからでもはじめることが重要です。

★スタディ③ 山梨の豊かな自然環境を守るために、私たちは何ができるのか考えてみましょう。